



内容紹介

- 西洋医学には冷えという概念がなく、したがって基本的に見過ごされてきたといえるが、伝統医学では未病として重要な位置づけをされてきた。また伝統医学では、冷えのみならず、暑さや湿気、乾燥なども病気の原因とされており、なかでも冷えが注目されてきたのは、近代文明が冷やす文明だからである。
- 伝統医学、特に漢方医学では、冷えに侵されると万物のもととなる「気」の産生が落ちたり、そのめぐりが不順となったりする。また「血」はもとは「気」であるから、その産生も落ち、滞ったりもする。「水」も滞る。その結果冷えはますます悪化する。この病態からさまざまな症状が出現することになるのである。
- 冷えはその悩みを医師に伝えても、とりあってもらえない状況が現在も続いている。医師がその概念を知らず、病態として捉えて治療の対象とすることができないからである。冷えは立派な未病であり、相応の対策をとることによって解消できるものである。
- 本書は、冷え対策を臨床家向けに記した初めての専門書である。冷えの概念、その対策としての生活指導、伝統医学的なアプローチについて、それぞれの専門家にご執筆いただいた。医師のみならず、看護師、伝統医学の治療家、獣医師などにも活用していただきたい。